

1 令和5年度の研究方針

令和3年の県小学校体育研究大会（若葉台小大会）での課題を解決しつつ、研究を進め開催した
 昨年の県小学校体育研究大会（羽合小大会）並びに中・四国小学校体育研究大会（就将小）プレ
 大会を開催した。2つの大会で見えた反省を生かし、令和5年度中・四国小学校体育研究大会
 （鳥取大会）に向けて、研究主題「ともに学び 未来を創る 鳥取の体育 ～運動の楽しさに浸
 り 豊かに関わり合いながら 課題を追究する子供～」のもと、各都市で領域を分担して、研
 究・実践を積み上げていく。

（鳥取全県での研究 ALL 鳥取）

令和4年10月28日（金） 中・四国小学校体育研究大会プレ大会（西部 @就将小）

令和4年11月11日（金） 鳥取県小学校体育研究大会（中部 @羽合小）

令和5年11月 2日（木） 中・四国小学校体育研究大会（西部 @就将小）

→各都市で研究主題を設定するのではなく、県の研究主題で研究・実践をしていく。

2 研究推進の目玉

（運動領域）

①「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方が分かる授業。

【「する・みる・支える・知る」の多様な関わり】

単元でめざす姿（ゴールイメージ）を意識するために作成し、視点を盛り込んだアンケート等を活用
 して形成的評価を行い、発問や言葉かけの吟味や展開の工夫に生かす。

→体力の向上にもつながることに着目し、「する」「見る」「支える」「知る」の多様なかわり方
 と関連付ける見方・考え方を働かせることができるような学習展開を考える。

→B 評定の児童の具体的な様相を意識する。（目標と評価の一体化）

②体育の授業に“浸っている”状態が分かる授業。

【体育授業に“浸っている”状態が分かる授業づくり】

運動の本質（特性）は何かを吟味し、類似の運動（アナログン）や易しいゲーム、簡易化された
 ゲームを設定することで、難しさではなく、易しい体育で楽しさにふれる機会を設定し、“浸っている”
 状態を創出する。

→系統性を意識し、6年間で身に付ける技能を考えた上で易しいゲームや簡易化されたゲームを設定して
 いく必要がある。

→本時で何が身についたのかが明確になるために「おおむね満足できる状況（B）」を「本時での児童の
 姿」として明確にしておく、「今日は〇〇ができるようになりました」と振り返ることができる手立て。

③準教科書「わたしたちの体育」の活用が分かる授業。

【準教科書「わたしたちの体育」の活用が分かる授業づくり】

参考書、掲示物、ワークシートの3つの活用法を意識し、子どもたちの学習支援とするとともに、参観
 者が「わたしたちの体育」を活用していることを意識できるようにする。

→「わたしたちの体育」を持参することの徹底。（参考書としての活用）

(保健領域)

- ①「身近な生活における課題の明確化」「原則や概念に迫る工夫」「行動化や環境づくりにつなげる工夫」を取り入れた単元構成。

【3つの学習過程を取り入れた単元構成】

保健に関わる原則や概念を根拠としたり活用したりして、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、さらには健康を支える環境づくりを目指して、情報選択や課題解決に主体的に取り組めるようにする。

→身近な生活における課題や情報を病気の予防やけがの手当ての原則及び健康で安全な生活についての概念等に着眼してとらえ、病気やけがのリスクの軽減や心身の健康の保持増進といった保健の見方や考え方を働かせながら学習が展開されるような手立て。

- ②保健授業に“浸っている”状態が分かる授業。

【保健授業に“浸っている”状態が分かる授業づくり】

実験や体験的な活動を通して、子どもたちの身近な健康課題への気付きを促し、子どもの主体的な探求に繋がるようにするとともに、養護教諭などの有識者による健康情報の提供により、健康保持や増進に関心を高められるようにする。

→養護教諭などの有識者との連携。

- ③教科書「わたしたちの保健」の活用が分かる授業。

【教科書「わたしたちの保健」の活用が分かる授業づくり】

学習を見通せる動機付けから、毎時間新しい自分にレベルアップできる記述欄の活用を通して、様々な資料を活用しながら単元最後に〇〇宣言で自己の生活に生かすなどの単元構成がわかる実践を行う。

→保健の学習の中でも「わたしたちの保健」を開く場面を必ずつくる。

3 今年度初め確認事項

○全県での共通した取り組みの徹底

●ふり返し板の活用

- ・子供たちが「情緒面」と「技能面」の2軸で自己評価を行う。
 - 授業者が子供たちの実態を把握し、次時からの活動での指導に生かす。
 - 子供たちが、グループの友達の実態に気付き、よりよい関わりを意識する。
 - ※子どもたちの実態に応じて、必ずしも2軸で評価する必要はない。
 - ※形成的評価としての利用と子どもたち同士の話合いのツールとしての利用ができる。
 - ↑ 扱い方によって、活用の場面を工夫する。
- (形成的評価の意味が強ければ、授業の終わりに。話し合いのツールとしてならゲーム①と②の間など)

●体育アンケートによるデータ分析・活用

- ・「する・みる・支える・知る」の視点を盛り込んだ体育アンケートを授業の前後で行う。

→事前アンケートで子供たちの単元への認知を知るとともに、意識の低い関わり方を重点にしながら単元構成を行うなどの分析・活用を行う。

→事後アンケートの結果をもとに、ねらいが達成できたのか評価・分析を行い、次の単元の指導に生かす。

●準教科書「わたしたちの体育」、教科書「わたしたちの保健」の活用の徹底

- ・「わたしたちの体育」は、子どもたちが学習に持参し、活動で困ったときにいつでも開けるようにする。(参考書の活用の徹底)
- ・「わたしたちの保健」は教科書でもあるので、授業の中で活用する場面を意図的につくる。

●ICTの効果的な活用

○指導助言者との連携

- ・各領域の指導助言者との連携を図り、研究を共に進めていただくようにする。